

# 認 定 書

国住指第 1019 号  
平成 26 年 7 月 25 日

J F E 建材株式会社  
代表取締役社長 大出 直文 様  
ロンシール工業株式会社  
代表取締役社長 門脇 進 様

国土交通大臣 太田 昭宏



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第三号（屋根：各 30 分間）の規定に適合するものであることを認める。

## 記

1. 認定番号  
FP030RF-1800
2. 認定をした構造方法等の名称  
塩化ビニル系樹脂シート・フェノールフォーム保温板・木毛セメント板表張  
／デッキプレート屋根
3. 認定をした構造方法等の内容  
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

(別 添)

1. 構造名

塩化ビニル系樹脂シート・フェノールフォーム保温板・木毛セメント板表張/デッキプレート屋根

2. 寸法及び形状等

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
断面寸法	高さ 151.5 以上
母屋間隔	2400 以下
支持方法	単純支持又は連続支持

(別添-1)

3. 材料構成

1) 主構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
I 防水シート	<p>塩化ビニル系樹脂シート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規格 JIS A 6008 (一般複合タイプ)</li> <li>・厚さ 1.5<math>\pm</math>0.15</li> <li>・質量 1.93<math>\pm</math>0.19kg/m<sup>2</sup></li> <li>・構成             <ul style="list-style-type: none"> <li>[1] 表層：塩化ビニル系樹脂                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・厚さ 0.5</li> <li>・質量 0.6kg/m<sup>2</sup></li> </ul> </li> <li>[2] 芯材：ガラス繊維不織布                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・厚さ 0.23<math>\pm</math>0.03</li> <li>・質量 30<math>\pm</math>3g/m<sup>2</sup></li> </ul> </li> <li>[3] 裏層：塩化ビニル系樹脂                 <ul style="list-style-type: none"> <li>・厚さ 1.0 ([2] ガラス繊維不織布を含む)</li> <li>・質量 1.3kg/m<sup>2</sup> (有機質量 1.25kg/m<sup>2</sup>)</li> <li>・組成 (質量%)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>{ 塩化ビニル系樹脂 ……96.2</li> <li>{ 無機質系添加剤 (アソチオン) ……3.8</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・シート相互の重ね 40 以上</li> </ul> <p>[防水シートの留付け方法]</p> <p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) 固定金具の後打ち工法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[1] 固定金具             <ul style="list-style-type: none"> <li>・材質 塩化ビニル系樹脂被覆鋼板製</li> <li>・厚さ 1.6 (鋼板 1.0)</li> <li>・直径 50～60</li> <li>・間隔 断熱材幅以下 (デッキ溝平行方向)</li> <li>600 以下 (デッキ溝直交方向)</li> </ul> </li> <li>[2] 固定金具留付ビス             <ul style="list-style-type: none"> <li>・材質 鋼製又はステンレス製</li> <li>・寸法 <math>\phi</math>6 以上<math>\times</math>0125 以上</li> </ul> </li> <li>[3] 補強シート (緩衝用)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・材質 塩化ビニル系樹脂 (防水シートの塩化ビニル系樹脂シートと同じ)</li> <li>・厚さ 1.5</li> <li>・直径 85</li> </ul> </li> <li>[4] 補強シート (パッチ用)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・材質 塩化ビニル系樹脂 (防水シートの塩化ビニル系樹脂シートと同じ)</li> <li>・厚さ 1.5</li> <li>・直径 150</li> </ul> </li> <li>[5] シール材             <ul style="list-style-type: none"> <li>・材質 塩化ビニル系樹脂</li> <li>・質量 20g/m<sup>2</sup>～30g/m<sup>2</sup> (シート相互の重ね部)</li> <li>15g 以下/箇所 (補強シート パッチ部)</li> </ul> </li> </ul>

項 目	申 請 構 造
1 防水シート (つづき)	(2) 固定金具の先打ち工法 [1] 固定金具 ・材質 塩化ビニル系樹脂被覆鋼板製 ・厚さ 0.7 (鋼板 0.6) ・直径 60～87 ・間隔 断熱材幅以下 (デッキ溝平行方向) 600 以下 (デッキ溝直交方向) [2] 固定金具留付ビス ・材質 鋼製又はステンレス製 ・寸法 $\phi 6$ 以上× $\phi 125$ 以上 [3] 緩衝用パッチ ・材質 チップボール紙 ・厚さ 1.5 以下 ・直径 100 以下 [4] シール材 ・材質 塩化ビニル系樹脂 ・質量 20g/m～30g/m (シート相互の重ね部)
2 断熱材	フェノールフォーム保温板 ・規 格 JIS A 9511 ・厚 さ 50～150 ・密 度 $27 \pm 3.0 \text{ kg/m}^3$ (面材部分を除く) ・面 材 (1)～(3)のうち、いずれか一仕様または組合せとする (1) ポリエステル不織布裏張・エポキシ系樹脂塗装アルミニウムはく ・厚さ $0.25 \pm 0.05 \sim 0.42 \pm 0.05$ ・質量 $128.1 \sim 12.8 \text{ g/m}^2 \sim 602.6 \pm 60.2 \text{ g/m}^2$ (有機質量 $60.6 \pm 6.1 \text{ g/m}^2$ 以下) ・表面塗装 1)～6)のうち、いずれか一仕様とする 1) エポキシ系樹脂 2) シリコン系樹脂 3) ポリエチレンテレフタレート系樹脂 4) ポリカーボネート系樹脂 5) ポリ塩化ビニル系樹脂 6) ポリ塩化ビニリデン系樹脂 ・質量 $0.6 \pm 0.3 \text{ g/m}^2$ ・アルミニウムはく (JIS H 4160) ・厚さ $0.025 \pm 0.005 \sim 0.200 \pm 0.05$ ・質量 $67.5 \pm 14 \text{ g/m}^2 \sim 542.0 \pm 54.2 \text{ g/m}^2$ ・接着剤 エチレン系樹脂 ・質量 $30 \pm 3.0 \text{ g/m}^2$ (有機質量 $30 \text{ g/m}^2$ ) ・ポリエステル不織布 ・厚さ $0.12 \sim 0.02, +0.07$ ・質量 $30 \pm 6 \text{ g/m}^2$ (有機質量 $30 \text{ g/m}^2$ )  (2) アルミニウムはく ・厚さ $0.025 \pm 0.005 \sim 0.20 \pm 0.05$ ・質量 $67.5 \pm 14 \text{ g/m}^2 \sim 542.0 \pm 54.2 \text{ g/m}^2$  (3) 水酸化アルミニウム紙張アルミニウム合金はく ・厚さ $0.109 \pm 0.01 \sim 0.465 \pm 0.05$ ・質量 $131.3 \pm 13 \text{ g/m}^2 \sim 753.5 \pm 75 \text{ g/m}^2$ (有機質量 $54 \text{ g/m}^2$ 以下)

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
3 野地板	硬質木毛セメント板 ・規 格 JIS A 5404 ・厚 さ 25 <sub>±2</sub> 以上 ・密 度 1.0 <sub>±0.1g/cm<sup>3</sup></sub> 以上
4 下地	デッキプレート ・規 格 JIS G 3352 SDP2G ・高 さ 75 <sub>±1.5</sub> 以上 ・厚 さ 1.2、1.6 ・働 き 幅 600 <sub>-2,+8</sub> 、 300 <sub>-2,+8</sub> (幅調整用) ・形状寸法 別添-7 参照 ・断面係数 36.3×10 <sup>3</sup> mm <sup>3</sup> /m 以上

## 2) 副構成材料

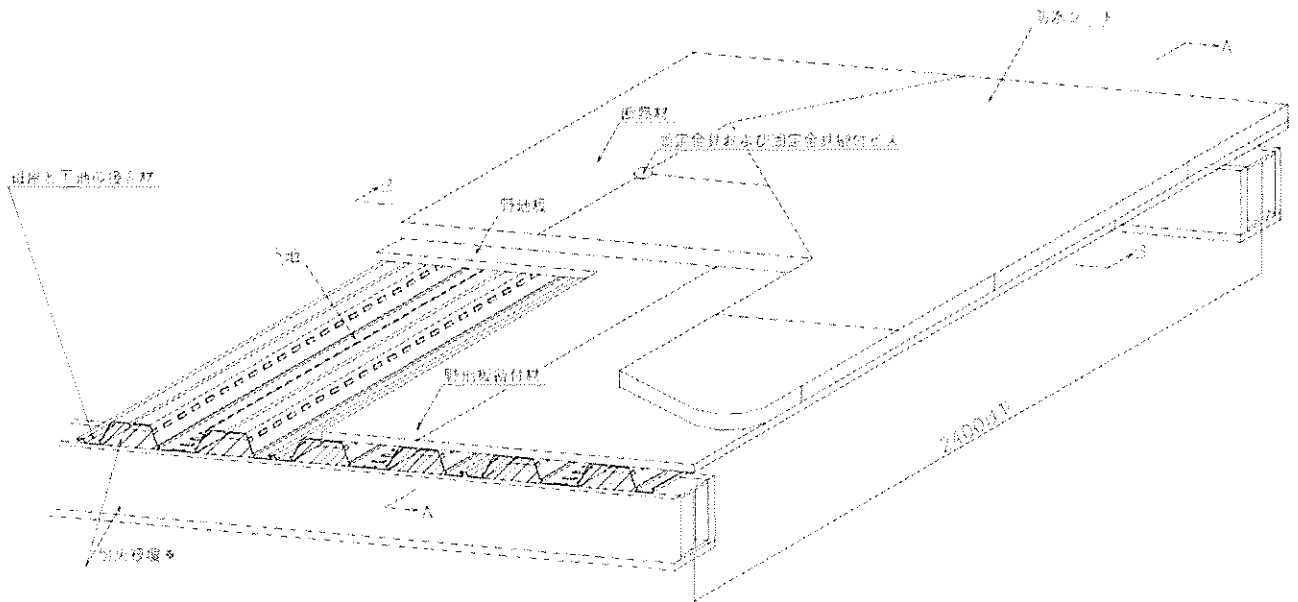
(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
①母屋と下地の 接合材	(1)～(4)のうち、いずれか一仕様とする (1)タッピンねじのねじ山をもつドリルねじ(母屋板厚6未満の場合) ・規 格 JIS B 1124 ・寸 法 $\phi 6$ 以上 $\times \phi 19$ 以上 ・間 隔 3ヶ所以上/600幅 (2)ドリリングタッピンねじ(母屋板厚6未満の場合) ・規 格 JIS B 1125 ・寸 法 $\phi 6$ 以上 $\times \phi 19$ 以上 ・間 隔 3ヶ所以上/600幅 (3)焼抜き栓溶接(母屋板厚4.5以上の場合) ・溶接径 18以上 ・間 隔 3ヶ所以上/600幅 (4)打込みびょう(母屋板厚4.5以上の場合) (合成スラブ用デッキプレートと鋼構造建築物の梁材とを接合する打込みびょうとして国土交通大臣の指定建築材料認定を受けたもの) ・寸 法 $\phi 4.5$ 以上 ・間 隔(本数) 3ヶ所以上/600幅
②野地板留付材	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)タッピンねじのねじ山をもつドリルねじ ・規 格 JIS B 1124 ・寸 法 $\phi 5$ 以上 $\times \phi 40$ 以上 ・間 隔(本数) 4本以上(端あき50以上) (2)ドリリングタッピンねじ ・規 格 JIS B 1125 ・寸 法 $\phi 5$ 以上 $\times \phi 40$ 以上 ・間 隔(本数) 4本以上(端あき50以上)

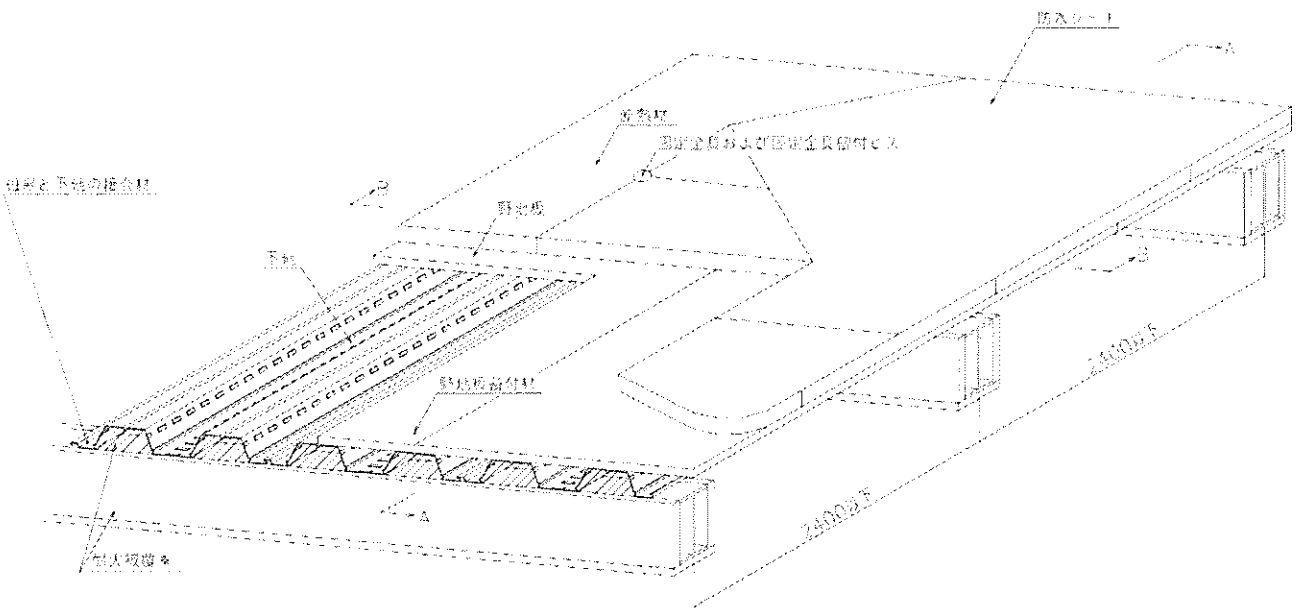
#### 4. 構造説明図

[透視図]

(寸法単位: mm)



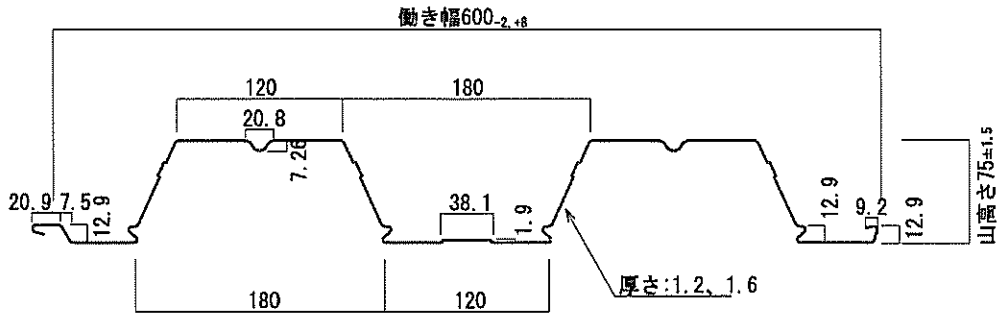
単純支持の場合



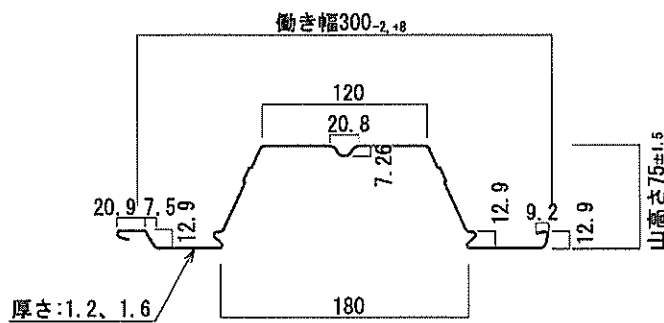
連続支持の場合

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

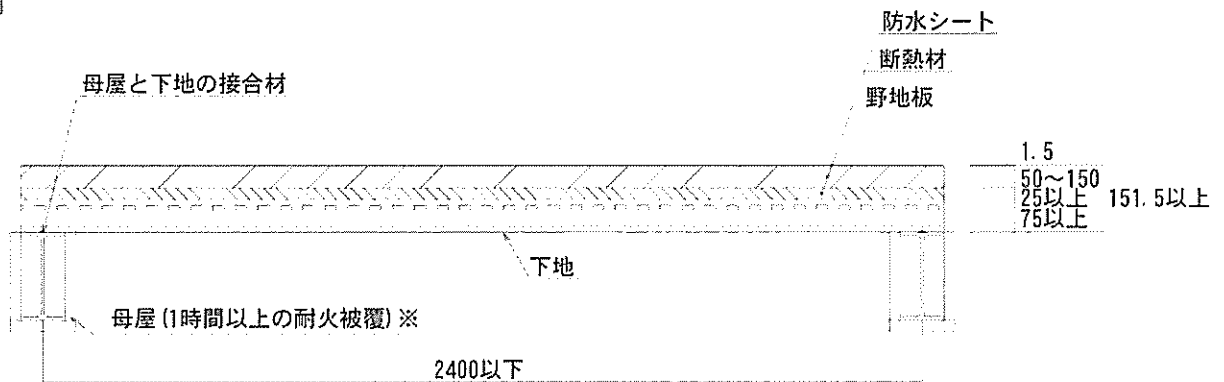
※: 本評価内容に含まない



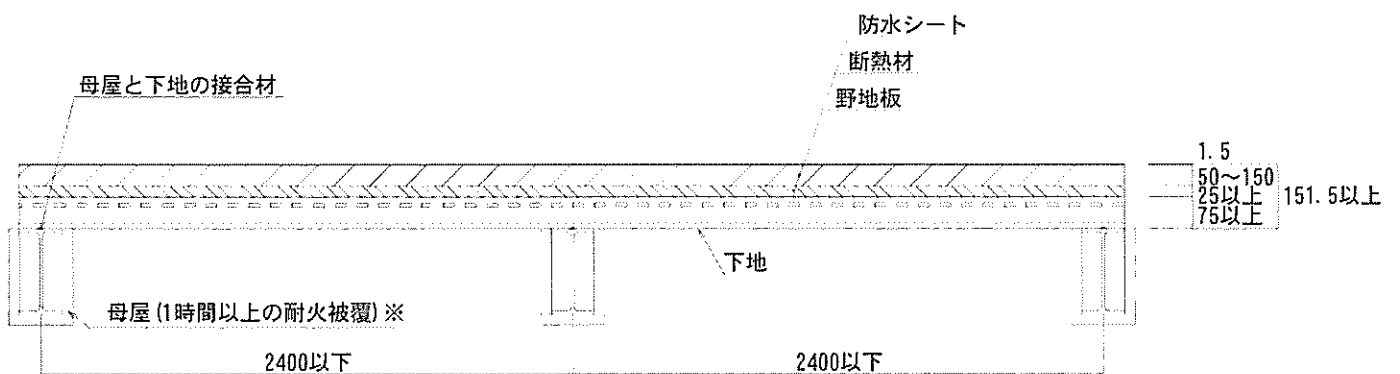
(幅調整用)



[断面図]



単純支持の場合



連続支持の場合

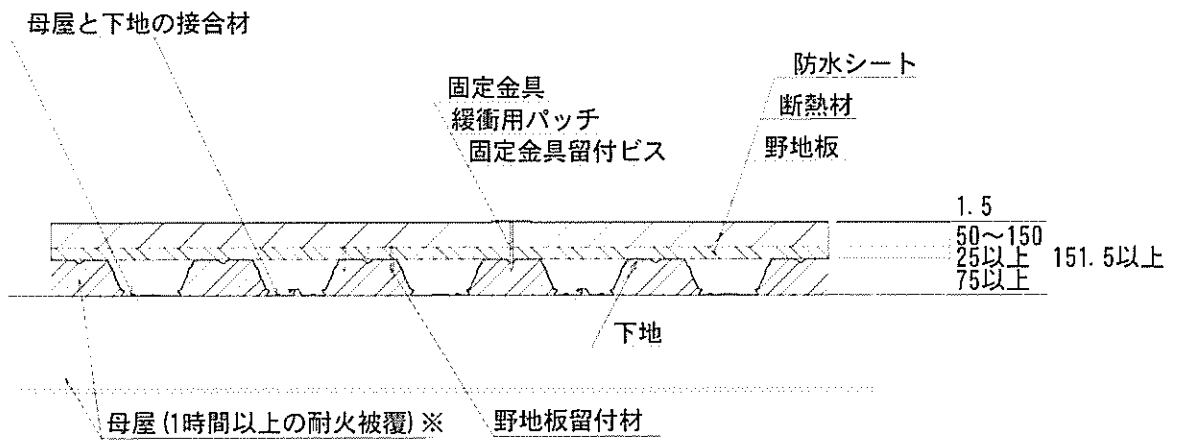
A-A 断面図

注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

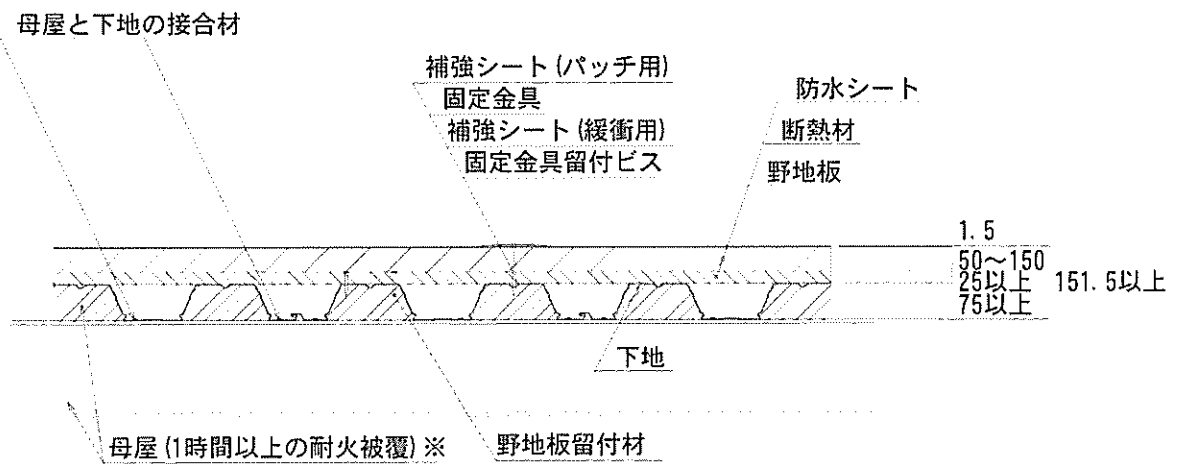
※: 本評価内容に含まない



(寸法単位：mm)



先打ち工法の場合



後打ち工法の場合

B-B 断面図

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

※：本評価内容に含まない

## 5. 施工方法等

### <施工図>

#### 4. 構造説明図と同じ（透視図、断面図）

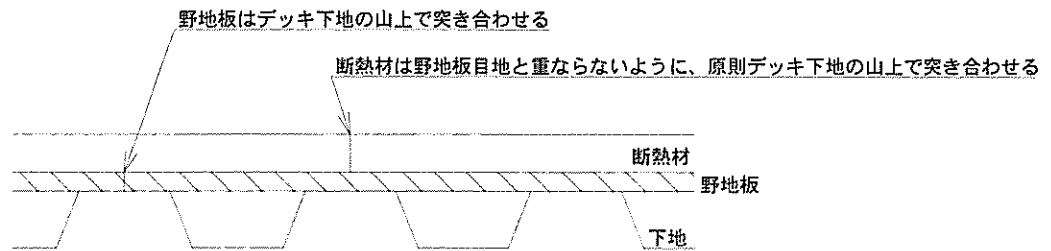


図 下地材・断熱材の敷き込み

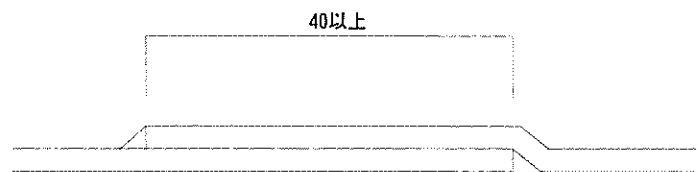


図 防水シート重ね代

### <施工手順>

- 1) 母屋の間隔は2400mm以下とし、はりおよび母屋には必要な場合、1時間耐火被覆を施す。  
但し、平成12年建設省告示第1399号第4、三、二の規定に該当する場合は、耐火被覆をしなくてもよい。
- 2) はり、母屋等構造躯体が完成した後、デッキプレート下地を敷く。
- 3) デッキプレート下地の溝部を上から母屋に、タッピンねじのねじ山をもつドリルねじ又はドリリングタッピンねじ、焼抜き栓溶接又は打込みびょうを用いて緊結する。
- 4) 2)～3)の手順を繰り返す。
- 5) デッキプレート下地の敷き込みが完了した後、野地板長手方向とデッキプレート下地溝方向が平行になるように、また野地板の縦目地が必ずデッキプレート下地の山上にくるよう隙間なく敷き込み、タッピンねじのねじ山をもつドリルねじ又はドリリングタッピンねじを用いてデッキプレート下地に留め付ける。なお野地板同士は突き合わせとする。
- 6) 断熱材は野地板と目地部が重ならないよう突き合わせて敷き込む。  
(先打ち工法の場合)
- 7) 防水メーカーの施工要領に従って、所定の位置において固定金具、緩衝用パッチを介して、固定金具留付ビスにより断熱材をデッキプレート下地に留め付ける。
- 8) 防水メーカーの施工要領に従って、防水シートを敷き込む。専用機器を用いて、固定金具がある防水シート上で誘導電流による加熱によって、防水シートと固定金具を融着接合させる。(誘導加熱融着)。  
(後打ち工法の場合)
- 7) 防水メーカーの施工要領に従って、防水シートを敷き込む。
- 8) 防水メーカーの施工要領に従って、所定の位置に補強シート(緩衝用)、更にその上に固定金具を置き、固定金具留付ビスにより、防水シート、断熱材をデッキプレート下地に留め付ける。その後、固定部に補強シート(パッチ用)を設置し、熱風により固定金具と融着させる。(機械的固定)。
- 9) 専用器具を用いて防水シート同士を部分的に熱風融着させる。防水シートの重ね代は40以上とする。残りの非接着部分を溶着剤で接合し、最後に防水シート継ぎ目に防水シール(塩化ビニル系樹脂)を施す。